

令和4年4月22日 音声データ 文字起こし 松原 たかし

早川（市民クラブ） これは因みに、確認なんですけど。最終的には市長が決める、市長というか行政側が決める形じゃないですか。二人出しちゃうっていうのは絶対駄目っていうことやね。

川村（副議長） 議案だもん。だってね。

早川（市民クラブ） そこだけちょっと確認したい。絶対駄目だよ。

片淵（議長） どっちか。どっちかいうことやね。

早川（市民クラブ） どっちかね。はい。分かりました。

川村（副議長） 両方どっちがいい。議案

山下（福祉・維新の会） 談合はやめようぜ。ほんとに議会の中で談合体質はやめてさ、ほんとに実際考えてやらんと駄目やて

早川（市民クラブ） 山下さん。やましたさん。うちそういうつもりはございません。

片淵（議長） 談合なんか無い。談合ない

山下（福祉・維新の会） 談合じゃないけども、の原理しかないが。本当に。

片淵（議長） 山下さん、感情的にならずに

山下（福祉・維新の会） 違う、感情的じゃなく言う場がないが私が、言う場がないから言うんだけども

山下（福祉・維新の会） さかえ君が議長の時に、こんなことになってる訳やが。な

あ。どこで責任を取っとるの、ほんとに。ほんで今回の今回の審査請求。情報公開請求から始まったのだって、どこが原因だったてこと、何も言わずに過ぎていこうとしとるが。どこが原因だったの。要するにそういうことを、さかえ議長の時に行ったから、そういうのを市民がおかしい。なあ、松原君そうたる。だから何も笑っとらでええわ。しっかり真面目にやろうぜ。だから、別にさかえじゃなかったら

片淵（議長） 山下さん、ごめんごめん。

松原（令和あさひ） あのね、気を付けて、慎んだ方がいいですよ。

山下（福祉・維新の会） いいわまあ、ここは。別に議事録も取っていないんだし

松原（令和あさひ） 何を言ってもいいの。何を言ってもいいんですか。

山下（福祉・維新の会） いや別に

片淵（議長） ここでそういうふうな議論をしないように。

山下（福祉・維新の会） 人の事は

松原（令和あさひ） 何を言ってもいいんですか。

山下（福祉・維新の会） 何をって、言ってみやあ。それじゃあ。

松原（令和あさひ） 言ってみやあでしよ。どういう発言の仕方、何ですかあなたは。

片淵（議長） 退席。退席。もうここ。

山下（福祉・維新の会） 休憩中なんですよ。ここ。

片淵（議長） 休憩中よ。

山下（福祉・維新の会） 何言っとんだ。

片淵（議長） 喧嘩したらあかんぞ。

山下（福祉・維新の会） 何も言っ取らんじゃないか。

松原（令和あさひ） 俺も何も。

川村（副議長） 押した。押した。

松原（令和あさひ） 今なんだ。今なんだ。

山下（福祉・維新の会） 近づけてくるなよ。

松原（令和あさひ） ほれみよ。

片淵（議長） もう出てけ。まあ。

川村（副議長） 山下さん。今のは良くないよ。

松原（令和あさひ） お前がぶつかってきたんだろ。

山下（福祉・維新の会） お前じゃないだろ。ぶつかってから、ただ したただけだ。

松原（令和あさひ） 何。何やっ取るや。

山下（福祉・維新の会） 何言っ取るや。

松原（令和あさひ） 今のはいかんでしょ。

山下（福祉・維新の会） 何やったの。あんたが来たんじゃない。

松原（令和あさひ） あんたが。

山下（福祉・維新の会） 私がここに来たら近づいてきたがん。

川村（副議長） 僕は見とったよ。

片淵（議長） もう出てくれ。

松原（令和あさひ） まあ情けない。

山下（福祉・維新の会） 情けないのはこっちだわ。

川村（副議長） 今のはいかんて。

山下（福祉・維新の会） 何で人のことを笑ってとんだ。真面目にやっとなだよこっちは。

松原（令和あさひ） どういう顔をしようが俺の勝手でしょ。

山下（福祉・維新の会） 勝手じゃないよ。

片淵（議長） もう分かったから。

松原（令和あさひ） まああ。

川村（副議長） こんなことになるとは思わなかった。ほんとにもう。

川村（副議長） ちょっと、代表者会、花井君に代わってもらって。あれでは駄目だわ。

ちょっと、それはそうしてほしい。いいわ。それ言うわ。

松原（令和あさひ） はい。

川村（副議長） あれでは駄目だわ。

片淵（議長） 二人、冷静になって。

川村（副議長） 山下さん、悪いけどさ

山下（福祉・維新の会） うん。分かった。分かった

川村（副議長） 代表者会、花井君と変わってよ。

山下（福祉・維新の会） ああ、いい、いい、いい、分かった。分かった。分かった。

分かった。分かった。私、代表者。松原さん、松原さん、松原さん、松原さん、ちよっ

と来てくれ。ちよっと来てくれ、松原さん。

川村（副議長） ちょっと今の状況だと二人にさせる訳にはいかないよ。

山下（福祉・維新の会） いえ、いえ、いえ、いえ、違う。違う話がしたいだけ

川村（副議長） ここですればいいじゃん。

松原（令和あさひ） 二人で話すのは、何が起こるか分からないので、私が原因される

のが嫌ですから、誰かが入らないと僕は嫌です。

山下（福祉・維新の会） じゃあ、川村さんが来てくれればいい。

川村（副議長） 嫌だ、嫌だ、僕もそれは

山下（福祉・維新の会） いや、いや、事務局長来てくれればいい。

川村（副議長） ここでやればいいじゃない。

事務局長 ここで

川村（副議長） ここでいいって。別に今の、休憩中だから公開されるものじゃないけ

れど、だけど、さっきの行為はね、懲罰もんだよ、悪いけど。分かってる。

山下（福祉・維新の会） 分かった。分かった。だから今ちょっと詫びようとしただけ

やがん。別に殴ったわけでもないし、つかんだ訳でも何でもない

川村（副議長） だけど、現実みとるけど。

松原（令和あさひ） そういう言い方をされるのであれば、体当たりはいいんですか。

山下（福祉・維新の会） え。

松原（令和あさひ） 体当たりはいいんですが。

山下（福祉・維新の会） 体当たりじゃない、今。

松原（令和あさひ） はあ。

山下（福祉・維新の会） どこが体当たりなの。

片淵（議長） ちょい、ちょい、まずな。

松原（令和あさひ） やった方と、やられた方では、違いますので。

山下（福祉・維新の会） ちゃう、ちゃう、ちゃう。

松原（令和あさひ） あっここに座っとればいいよ、僕別にここまでこんでも。

山下（福祉・維新の会） いや、いや。だって、だってここに来た時、あんたが来たが  
ん

川村（副議長） もう、近寄るな。

山下（福祉・維新の会） 近づいてきたがん。

松原（令和あさひ） 俺がほこ行ったら、あんたが来たんだがん。

川村（副議長） 近寄るな。

山下（福祉・維新の会） 何言っとるや。

松原（令和あさひ） 皆に聞いてみやあ。

山下（福祉・維新の会） 皆に聞いてみるわ。どっちが近づいて来た。ほいじゃ。

川村（副議長） あのね。近寄った段階で、ぶつかっていったのは山下さんに見えた。

山下（福祉・維新の会） まあ、見えた。まあええ。だからもしそういうふうに見えた  
んだったら悪かったねと謝りに来たんだわ。

川村（副議長） 離れて。

松原（令和あさひ） 俺には全然見えなんだ。

山下（福祉・維新の会） それは自分の

松原（令和あさひ） うん。あなたが。

川村（副議長） もう悪いけど離れないかん

山下（福祉・維新の会） 悪かったねと言って。

松原（令和あさひ） ほんと、よかったね、よかったね。

片渕（議長） ちょっと

山下（福祉・維新の会） 人をね、笑ってね

松原（令和あさひ） どういうふうに思われても結構でございます。

山下（福祉・維新の会） でも、何にしても、だから

川村（副議長） だから、花井君に代わってこの場

松原（令和あさひ） もう、別にどうでもいいです。

山下（福祉・維新の会） どうでもいい。オッケー、今どうでもいいって言ったよね。

松原（令和あさひ） はい。

山下（福祉・維新の会） オッケー。

川村（副議長） 山下さんも、まともな議論できるとは思わないから

山下（福祉・維新の会） ああ、ああ

川村（副議長） 花井君に代わって。

山下（福祉・維新の会） うん、まあ

川村（副議長） 代表者会だから、入れ替えできるから。

山下（福祉・維新の会） ああ、いい

川村（副議長） 代わってちょうだい。

片淵（議長） 松原代表も変えようか。

山下（福祉・維新の会） いい、いい。私はこれでいいです。まあ、いいがん

片淵（議長） 今は休憩中

山下（福祉・維新の会） 話をしたもんで

松原（令和あさひ） 別に話をしたとは僕は思っていないので。

山下（福祉・維新の会） でも今

松原（令和あさひ） あなたはそう思っただけで。



山下（福祉・維新の会） まあいいわ、録音

片淵（議長） 冷静に。冷静に。冷静になって下さい。本当に品位をわきまえて下さい。

山下（福祉・維新の会） 分かりました

片淵（議長） 議員としての当然のごとく。一番大事なことなんで。

山下（福祉・維新の会） 大丈夫ですよ。じゃあ冷静にやりましょう。

片淵（議長） 冷静にお願い

川村（副議長） 冷静に花井君と代わって。

山下（福祉・維新の会） まあ、いい、こっちからは

川村（副議長） まあ、いいって。決めるのはこっちなんだわ。

松原（令和あさひ） 何でしたら、うちも代わりましょうか。

川村（副議長） もういいかどうか決めるのは、議長、副議長で決めたいと思い

片淵（議長） 普段こういうふうな状況の中で、僕は冷静にね、これからの議会人事が

進まないと思います。進行がね。で、事あるごとにこういうのがあると、また大変で、

できれば副議長の考えは、山下さんにね、できれば花井さんに代わっていただいて、ほ

んで、令和あさひの松原代表も代わってもらいます。

松原（令和あさひ） 私は従いますよ。

山下（福祉・維新の会） まあ、あの、そこはまあいいや、ごめんね、悪かった

川村（副議長） ごめんねじゃない。

松原（令和あさひ） そういうふうであれば私は、従わせていただきます。

川村（副議長） もうさっきのは、ごめんねじゃない。もう駄目だ、花井君に代わってよ。ありえないもん。だってあんなの。

早川（市民クラブ） お待たせいたしました。

松原（令和あさひ） 従わせていただきます。

早川（市民クラブ） すみません。お待たせいたしました。

片渕（議長） このことはな、今早川代表も知らないし、芦原代表も、ちょっとした、聞いた中で、ちょっとやり取り、ちょっとあったんで、いざこざあったんで

早川（市民クラブ） ああ、はい。

山下（福祉・維新の会） まあ、いいや、あの

片渕（議長） ちょっと冷静にな

山下（福祉・維新の会） 前後のことがちょっとわからへんもんだから

川村（副議長） 違う。ありえないんだってあんなのは。

片渕（議長） 冷静な、議事進行言うんか

山下（福祉・維新の会） それは川村さんのことだと思うんだけど

片渕（議長） 議会人事の仕事ができないんで

山下（福祉・維新の会） 冷静に判断してやっていきますから。

川村（副議長） 僕は冷静だよ。

山下（福祉・維新の会） うん。僕も

川村（副議長） あれは駄目だ。

山下（福祉・維新の会） うん。それはでも、一応議長にお任せしますけども、代表者  
会の代表者として出ていますので、あの、すいません。あの、反省するところはあるか  
もしれないので、もう一度振り返りながらやりますけれども

川村（副議長） やらせないよ。

松原（令和あさひ） 私は、議長、副議長の指示に従わせていただきます。

片淵（議長） ここまでね、休憩中なんで、議会人事でこういうふうなやり取りするこ  
とは過去にないと思います

川村（副議長） ない。ありえん。

片淵（議長） ね。ほんで、感情的になって、下手したら殴り合いになりかけたでしょ、  
今

山下（福祉・維新の会） 殴り合いなん

川村（副議長） なりかけたに見えた。

片淵（議長） 見えた。ほんとに、見えるんです。そこまで感情的になってね、そうい  
うことをこの場で、起こしてしまう、ね、そういつて、やった、やらんとか、でこの状  
態の中で冷静に、この大事な議会人事の進行ができるかどうかだけです。改まってでき  
れば、できればね、これは各代表者の方もね、もう今、山下代表と松原代表は、ちょっ

と代わっていただいて、代表

早川（市民クラブ） ごめんなさい。ちょっと僕、全く経緯経過が分からん

松原（令和あさひ） まだ休憩中ですので、少し私も感情的になりました。そこで品位を崩すような発言もあったかと思えます。

山下（福祉・維新の会） はい。これ今始まっていないかもしれないんですが、私も大変申し訳なかったというか、気持ち的にそういう大事な役員を選ぶに際にあたってどうでしょうかという疑問視があったので、それを言葉に述べました、休憩中に。で、松原代表の方から、休憩中だったものですから、私も発言が結構過激だったのかもしれないんですが、その様なお指摘をいただきました。で、その言葉の綾の事の中で、争いがあったということで近くに顔が寄って接触したということも、まあ、川村副議長もこれはよくないんじゃないかという指摘をいただきまして、ご本人には申し訳なかったという事を、まあ、その、特に、殴ったとか、蹴ったとか、叩いたとかないんですけど

川村（副議長） おなか突き出してせおってったんだよ

山下（福祉・維新の会） だけどそうふうに

川村（副議長） 払いのけるようにして、まねしたんだ

山下（福祉・維新の会） それは、お互い

川村（副議長） お互いじゃない。

山下（福祉・維新の会） 申し訳ないけども

早川（市民クラブ） ちょっ、ちょっ

山下（福祉・維新の会） 申し訳ないと思いますけども、僕は人にそんな顔近く寄りた  
くないですけども、これは僕の主観ですけれども、あったということですので、そうい  
った態度に対しては、思いましたが、ただ、大人の態度じゃなかったなということで、  
反省しておりますし、お詫び申し上げますと、こういうことでございます。どうしても代  
わった方がいいということでしたら、ちょっと経緯をだけを説明しないと、急に代わっ  
ていろんな話が届かないので、少し時間をいただかないと、できないなということはある  
ります。それか、議長、副議長はですね、このあとこんなことがあったら、すぐ出てっ  
てくれということをおっしゃられて、言うんだったら、それは責任ある立場の、議長、  
副議長ですからそれには従うようにはしますけれども、どちらでも結構です。

川村（副議長） いい、ちょっと。

山下（福祉・維新の会） はい。

川村（副議長） さっきのことが起きたのは、僕目から見るとね、二人が近寄って  
いて、山下さんがおなかを突き出して、松原さんを押したと、言うふうに見えた。ここ  
から見ててね。まあすぐ横だから接触したかどうかは分からん。横から見てる訳じゃな  
いから。あれはね、やっぱりね、一触即発の暴力に近い。そういう状況に見えました。  
あれはね、初めてだわ。僕はあんなの見たのは。ここでね。で、もう一つ言うと、秘密  
会の時に、やってる訳ではないので、あれは、こういうことを見ましたということが、

僕は書ける。分かってる。

山下（福祉・維新の会） 大丈夫です。まあ、あの

川村（副議長） 秘密会だったら、その中で起きて、暴力起きて問題だけど、そこでもね。だけど、休憩中にそういうことがあったっていうことは、僕は書けるよ、分かってる。

山下（福祉・維新の会） 大丈夫です。懲罰委員会にかけていただいて、そこで自分の弁明とかさせていただきたいと思いますので、どうぞ準備してください。

川村（副議長） そういうことは、議会の恥だからやりたくはない。そんなことは。

山下（福祉・維新の会） お任せします。自分はそういうふうで

川村（副議長） お任せしますって言いながら抵抗するでしょ、花井と代われって言ったって。

山下（福祉・維新の会） だから、話をして、ないとながらないから時間下さいの今選択肢の二つを今

川村（副議長） いやいや、あれだよ、山下さんの態度によっては、じゃあ、福祉・維新の会さんは、この会議に参加する資格はないので、もう退席、だけでもいいと思う。代理を立てずに、そういう方法だって考えられると思うんだよ。だから、今反省しなきゃいけないのは、一方的に山下さんなんだよ、僕からすると。で、そういう反省の弁は言われるけど、そういうふうにもやっぱり見えないので、それは潔くね、自分がやっぱ

り先に手を出してしまったということは認めるべきなんだよ。違う。

山下（福祉・維新の会） 客観的なところで、当たった、当たらないはあるんですけど、心情的なことから、弁明させていただくと。いいですか

川村（副議長） 心情もない。手出したらもう駄目なの。

山下（福祉・維新の会） いや、その、手を

川村（副議長） 出したんだって

山下（福祉・維新の会） 何も、手出してません。手は出してない

川村（副議長） 手はね。おなかを出したわ、言い変えれば

山下（福祉・維新の会） まあでも、顔が近くまで寄って来たんですよ。だからその時にだから、それは、だから、なぜそれをかばうんですか。だって、顔を僕こんな寄せることなんか自分はしません

川村（副議長） かばってない。僕はさかえさんのことはかばってない

山下（福祉・維新の会） 違う今の現象で。

松原（令和あさひ） すいません。すいません。私から近寄ってったことはないです。

あなたが、こちらへ来られました。

山下（福祉・維新の会） いやいや

松原（令和あさひ） ほんで私に近づいて、体で当たってこられました。以上でございます。

片渕（議長） はい。

松原（令和あさひ） それか、もう一つ録音されとるので、一遍、一度二人に聞いていただいで休憩中の話を。

川村（副議長） 今も休憩中なんだわ

松原（令和あさひ） 聞いていただければ、どういうことが起こったかということは、歴然と分かりますので。

山下（福祉・維新の会） 同じく大丈夫ですけれども、僕もそれは主観的に自分から見たらそうだったかもしれないけれども、僕は別にそこに入っていった訳でもないし、角まで行って、出ただけだったんですけれども、顔が近づいてきたので、そういう態度を取りました。これ主張させてください。それは。

片渕（議長） ごめんね。僕も見ている限りでは、山下議員の方から近づいて行った

山下（福祉・維新の会） どこまで行ったなんて、どうしてそれが、僕はそこ行かないですよ左には。

松原（令和あさひ） 来たがね。

山下（福祉・維新の会） 行ってないです。

片渕（議長） 山下さんね、僕見てる限り、つかつか走ってって感情的になってさ、近づいて行った。で、僕やめてくださいと声掛けました。

山下（福祉・維新の会） まあ、そら多数決ですからそういうふうに皆さんが



川村（副議長） 多数決じゃない。

山下（福祉・維新の会） 多数決じゃないですか。

川村（副議長） 多数決じゃない。僕と議長が見ててもそうだし、おそらく事務局は言  
いにくいだろうけど、もっと近くで見えても、事務局も多分そうなると思う僕は。で

山下（福祉・維新の会） で、それは多数決

川村（副議長） 近寄って行ったのは、お二人の席から近寄って行ったから、その段  
階では、どっちが先とは僕は思わないけれども、僕は少しくらいちょっと離れてさ、唾  
がかかるときの距離で怒鳴りあいでも始まるのかなと思ってましたよ。ところが、近  
寄って行っておなかを突き出して、松原さんを押したのは、こっちから見ると山下さ  
んがそういう態度をとったというふうにしかみえなかった。

片淵（議長） ほんとに、冷静になれば僕分かることだと思いますが、近寄って、僕は  
止めましたよ。で、また、近寄りに行つたと、やめてください、やめてください言いな  
がらね。そこは間違えないと思うんで、冷静に判断していただきたいと思います。本当  
にね

山下（福祉・維新の会） まあ、議長は冷静に見ていただいていると思います。じゃあ、  
どうしましょう。選択肢の中で決めていただければ、そのようにします。

松原（令和あさひ） 私は従います。

片淵（議長） 早川代表は、なんかある。

早川（市民クラブ） 見てもいないから、意見も何もないけれど、個人的には、収め方は議長、副議長に 分からんもんで、誰がいい悪いは何も僕は無いので、今のところ

片淵（議長） はい。分かりました。

議事課長 すみません。自分も過去の監査委員の選任の関係で調べたいこともございますし、もし、よろしければお昼休憩に

川村（副議長） お昼休憩にしようか。

早川（市民クラブ） その前にちょっと、話の途中でごめんね、課長ね。代表が代わるとか代わらんっていうところまでかは、休憩が入るのは構わないんですけど、このタイミングで代わるなら、議長、副議長に決めてもらって、松原さん山下さんが代わるのか、そこも全部お任せしますので、こちらは今持ってきた結論を伝えるか伝えんかとか、課長が言われたことを聞いてからっていうことになれば、また、会派に言いますんで。

片淵（議長） はい。分かりました。

早川（市民クラブ） 今ね、山下さんと松原さん、ひょっとして代表者チェンジするかもしれないもんで、そのことだけ伝えにいくって言ってたから、中西君と岡田さんに。で、チェンジするの。

片淵（議長） チェンジするのは、山下さんだけやな。

川村（副議長） チェンジは山下さんだけ。

早川（市民クラブ） 両方がいいんじゃない

川村（副議長） いや、二人を外に出してぶつかったらどうすんのそこで。

早川（市民クラブ） 任せます。僕はちょっと見とらんもんで分からんのやけど。

片淵（議長） いや、ほんとに、一触即発のような感じで殴り合いが始まるのかなという

川村（副議長） 近づいてったんだわ。二人、お互いにね。僕から見るとね。ほんで、事務局慌てて、みんな立ち上がって間に入ろうとするでしょ、僕は、いやそんなまさか手出さんやろって。で議長も心配して向こう行くから、僕だけこうやって、そう、あ、

山下さんおなか出して松原さん押したじゃん

片淵（議長） たぶん下手な殴り合いになるだわ

川村（副議長） いや、あれはありえんよ、でも

早川（市民クラブ） ああ、そう。

片淵（議長） 下手したら、こっからまた政倫審

川村（副議長） 俺がやるんか

片淵（議長） 知らんよ。知らんよ

早川（市民クラブ） まあ、やめようよ。そんなめんどくさいことではずかしい

川村（副議長） 議会の恥だから、もうこれで収めたいよ

早川（市民クラブ） ないないで収めとこう、もう。やめようよ、そういうこと恥ずか

しいなあ。

片淵（議長） 始まる前に伏線があったからな。休憩の時のな。

早川（市民クラブ） 談合はいかんなんて、しとらんで。

片淵（議長） すいません。お待たせしました。

山下（福祉・維新の会） よろしいですか、もう始まっていますか。

片淵（議長） まだまだ休憩中。休憩の中で、僕の方から説明、話をします。とりあえず今、協議しました。で、正副議長で協議して、今回の一連のことについては、やっぱり山下さんね、やっぱり如何なものかと、いうこともありますので、今回の人事件の、人事案については、交代してください。代表をね。

山下（福祉・維新の会） はい。

片淵（議長） 山下代表。

山下（福祉・維新の会） 休憩中で、てゆうか休憩中でいいのかどうかもあれなんですけれども、確かに人格的にどうしても感情が出たていうのは良くないと思いますので、先ずは今の監査のエントリーについては、とてもその監査をエントリーするだけの人格としては自分は不足しているということですので、一応手を挙げたんですけれども、自分の考えの中で、これは降ろさせていただいて、後は決めてください。あの、賛同するかどうかについては別なんですけれども、先ずはそういうことでお詫び申し上げます。そのことで先ずは一つ責任と、から、あと代わることにつきましては、お任せしますし、

今代わるんでしたら花井議員がいますので、代わるようにします。と、代表の方もですね、やはり責任を取ってですね、変更したいと思いますが、よく打ち合わせして、各委員会エントリーも出しているものですから、そういったことでまた、差し支えるようでしたら、大変これも他の皆さんに申し訳ないので、そのあたりについてもう一度よく確認しますが、やはり正副議長にもご迷惑かけたし、他の代表者にもご迷惑かけましたので、代表の方もですね、一応うまく話ができれば、降ろさせていただいていきたいと思っています。そういった謝罪の方法にはなりますけれども、一応自分でやはり態度的に、いろんな気持ちもあることにはあるんですけれども、しっかりした議論の中で、話をするのが議員だということだと思っておりましたものですから、お詫び申し上げまして、今から発表されることに従いますので、よろしくをお願いします。

片淵（議長） さっき言った通りなんで、山下代表の意思確認は分かりました。意思確認は取れたんで、昼から代表者会をね、代わってください。で、事前に時間ありますからね、花井議員とちょっと打合せした中で、中身ですね、もう一回まとめてもらって、花井議員が代表でこの席に着いてください。いいですかね。

山下（福祉・維新の会） はい。指示に従います。いろいろご迷惑かけました。すいませんでした。どうも申し訳なかったです。

早川（市民クラブ） あの、山下さんが降りるとか降りんのは別にいいんですけど、降りることだけは、スタートしてから意思だけ言わないと、今まだ残っている状態なの

で、そこだけは、スタートしてから降りますよってということだけは入れといた方が

川村（副議長） 議事進行中の中に入れとかないかん部分があるんじゃないかなと思っ  
て

早川（市民クラブ） 今の山下さんが降りるっていうのは、別に理由言わなくてもいい  
ので、降りますって言っていただいて、代表も花井君に代わりますよって言うことだけ  
言えば終わりですので

片渕（議長） そうですね

早川（市民クラブ） 理由も何も言わなくていい。

片渕（議長） 分かりました。